

'17 en JAPON

日本の「コスキン」にあり。中南米音楽フォルクローレの祭典「コスキン・エン・ハポン2017」が、今年も盛大に中央公民館で開催されました。10月7日から3日間、にわたり開催されたコスキン・エン・ハポンは、今年で43回目となりました。全国各地から181組のグループが集い、昼夜を問わず「日本のコスキン・川俣町」でのフォルクローレ演奏を堪能しました。8日には、本場アルゼンチンの「コスキンフェスティバル」に、日本代表として出場する権利を争う「第58回コスキンフェスティバル・日本代表審査会」が行われました。今年の審査会には、「エドアルド・ガルシア」さん（東京都）と「桑原しんいち」さん（大阪府）の2人が出場しました。いずれもソロの演奏者ということもあり、審査は難航しましたが、繊細で力強い演奏と豊かな歌唱力が評価された「桑原しんいち」さんが、見事に日本代表に選出されました。日本代表となった桑原さんは「正直、大阪からの長旅で、満足できる演奏を披露できたとは到

国内最大の中南米音楽祭

コスキン・エン・ハポン 2017

Viva! ヴィバ

Viva Kawamata! Viva Cosquin'17 en JAPON



ヴィバとは、アルゼンチンの公用語であるスペイン語で「生きている」などの意味があり、喜びや祝福を表す時に日本語の「万歳」のように使われる言葉です。

Love
Kawamata.



ウルグアイとブラジルに国境を接する地に生まれた本場アルゼンチンの著名歌手ジセーラ・メンデス・リベイ

ロさんがゲスト出演。力強く艶やかな歌声が、会場全体を魅了した。会場からは、2度のアンコールを求める手拍子がわき起こった

Gecela



雨天のためコスキンパレードは中止になってしまったが、コンフルエンシアジュニアの部のみなさんが、練習を重ねた華麗な踊りでコスキン・エン・ハポンの開会に花を添えた

昨年の審査会で日本代表に選出され、今年1月にアルゼンチンのコスキンフェスティバルに出場した、小川紀美代さん率いる「小川紀美代と蛇腹隊」も出場報告を兼ねた演奏を披露。心を込めたフォルクローレ2曲を披露した



初の審査会出場で日本代表に選ばれた大阪府の「桑原しんいち」さん

COSQUIN

底言えないが、素直に嬉しい。過去に4年程アルゼンチンに住んでいたこともあり、本場のコスキンフェスティバルに参加するのは今回で4度目。日本代表として参加するのは初めてなので、自分の全力を出し切りたい」と、笑顔で話しました。

オルクローレの音色で彩られた3日間。演奏者たちは折りに触れて「川俣町の豊かな緑は本当に本場コスキンのよう。この場所で演奏できることが最高の幸せ」と口にしていました。まさに、ここは日本のコスキン。ここで奏で、ここで歌い、ここで仲間と再会すること。それがコスキン・エン・ハボン最大の魅力なのです。コスキン・エン・ハボンは、川俣町にしかない宝物です。これからも、みんなで大切に育てていきましょう！



過去に日本代表に選出されたメンバーによる「Himno a Cosquin」。本場コスキンフェスティバルのオープニングテーマ曲であるこの曲は、審査会挑戦者への激励、そして、本場アルゼンチンの雰囲気来場者に少しでも伝えたいという熱い想いが込められている



みんなでつくる特別な音楽祭

—— コスキン・エン・ハボン開催事務局長 斎藤寛幸さん ——

来場いただいたみなさん、誠にありがとうございました。とても嬉しいことに、今年は、出演者のみなさんからも「何かお手伝いがしたい」という声をいただき、画期的なインフォメーションコーナーを新たに設置することができ、大変スムーズにコスキン・エン・ハボンを運営することができました。また、例年通り、事務局をはじめとする町内外のボランティアのみなさんや、大学生のみなさんにもお手伝いいただいたことで、本当に「みんなでつくるあたたかい音楽祭」になりました。コスキン・エン・ハボンのこれまでの長い歴史も、みんなで手を取り合って、少しずつ積み重ねてきたものです。これからも、一人ひとりが楽しみ、支え合い、笑顔になれる音楽祭をみんなでつくっていきたいと思いますので、みなさんのご理解とご協力をお願いします。コスキン・エン・ハボンは、誕生からもうすぐ半世紀を迎えます！またみんなで盛大にお祝いしましょう！



ゲスト出演した「福田大治トリオ」のみなさん。平和な世界を願う思いがメロディーに込められた。日本のコスキン・川俣での演奏に、演奏後には感極まる姿を見せた

Kawamata

Cosquin
フォルクローレを代表する楽器「ケーナ」の音色は、コスキン・エン・ハボンが開催された3日間、朝から晩まで会場に響き渡り続けた